

野外体験保育有効性調査 報告書

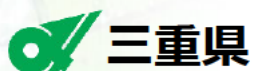
概要版

三重県では、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざして取組を進めています。

幼児期における自然体験を通して、子どもは知的好奇心や感性が豊かに育まれ、社会性、自尊心、自己肯定感の向上が期待されると言われていることから、平成27年度に、県内の野外体験保育の実態を把握するとともに、当保育の有効性の検証や普及方策の検討を行うため、県内保育施設へのアンケート調査や保護者向け意識調査等を行いました。

この概要版はその主な調査結果をとりまとめたものです。

平成28年3月



調査の概要

1. 調査の趣旨

幼児期における自然体験の効果が子どもの育ちに有効であると言われている中、県内の保育所、幼稚園等や保護者に対して野外体験保育に関する実態調査、現地調査や意向調査等を行い、野外体験保育の有効性の検証を行うとともに、県内の野外体験保育の実態をふまえて野外体験保育の普及を図ります。

2. 野外体験保育の定義

野外を中心に、地域の自然を活用する体験活動を取り入れた保育や幼児教育

3. 調査の内容

(1) 保育施設向け実態調査（アンケート調査）

- 調査対象 県内全ての幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園（計 636 園）
※回答数 546 件（回答率 85.8%）
- 調査期間 平成 27 年 10 月 5 日～10 月 28 日
- 調査項目 ●野外体験保育の内容と実施頻度 / ●子どもたちの様子
●園外での野外体験ができる自然環境（フィールド）の有無
●野外体験保育に対するニーズ・課題 など

(2) 野外体験保育に積極的に取り組む施設向け現地調査（職員等へのヒアリング調査）

- 調査対象 北勢地域、中勢地域、伊勢地域の各 1 施設（計 3 施設）
- 調査日時 平成 27 年 10 月及び 12 月
- 調査項目 ●保育・教育のポリシー
●野外体験保育の内容と実施頻度
●野外体験保育に対するニーズ・課題・安全対策 など

(3) 保護者向け意識調査（アンケート調査）

- 調査対象 野外体験保育に積極的に取り組む施設（上記調査実施施設）に子どもを通わせる保護者のうち、5 歳児クラス（年長組）の子どもを持つ保護者（計 50 人）
※回答数 50 件（回答率 100%）
- 調査期間 平成 27 年 12 月 8 日～21 日
- 調査項目 ●子どもの変化 / ●大人の変化 など

調査結果から見えること（主なもの）

（1）「野外体験保育の実施頻度※」と「子どもたちの様子」との関係

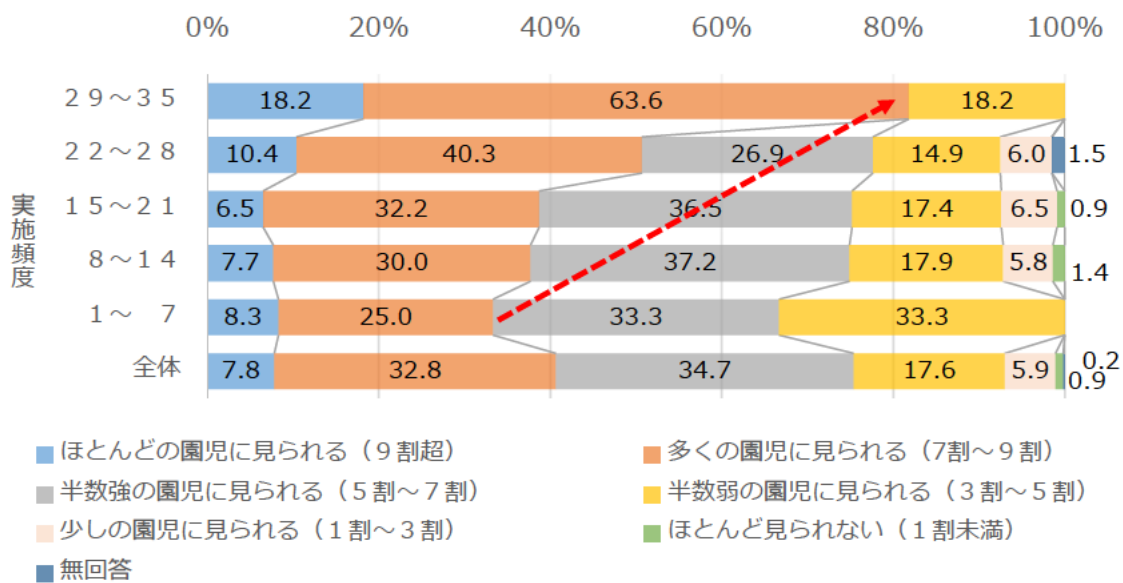
野外体験保育の実施頻度が高い保育施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られる施設の割合が高い。

※実施頻度については、P 4【野外体験保育の実施頻度の点数化について】を参照

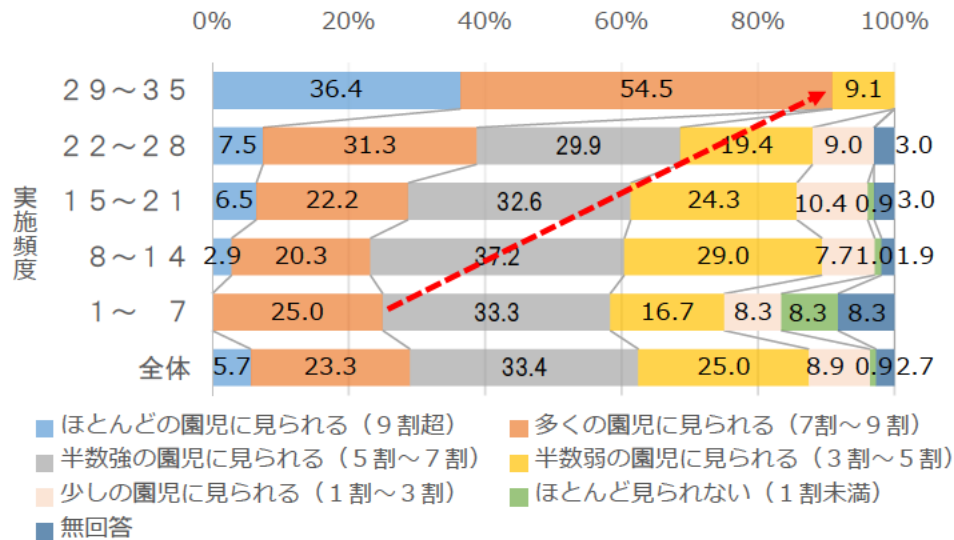
保育施設向け実態調査（アンケート調査）の結果において、「野外体験保育の実施頻度」と「子どもたちの様子」との関係を見ると、「自分からすすんで何でもやる」という項目について《ほとんどの園児に見られる》及び《多くの園児に見られる》と答えた施設の割合は、野外体験保育の実施頻度が低い「1～7」「8～14」のグループに属する施設では、それぞれ33.3%、37.7%であるのに対し、実施頻度が高い「22～28」「29～35」のグループになると、それぞれ50.7%、81.8%となり、野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、こうした様子が見られる園児の割合が高くなっています。

同様に「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの項目についても、こうした関係が見られます。

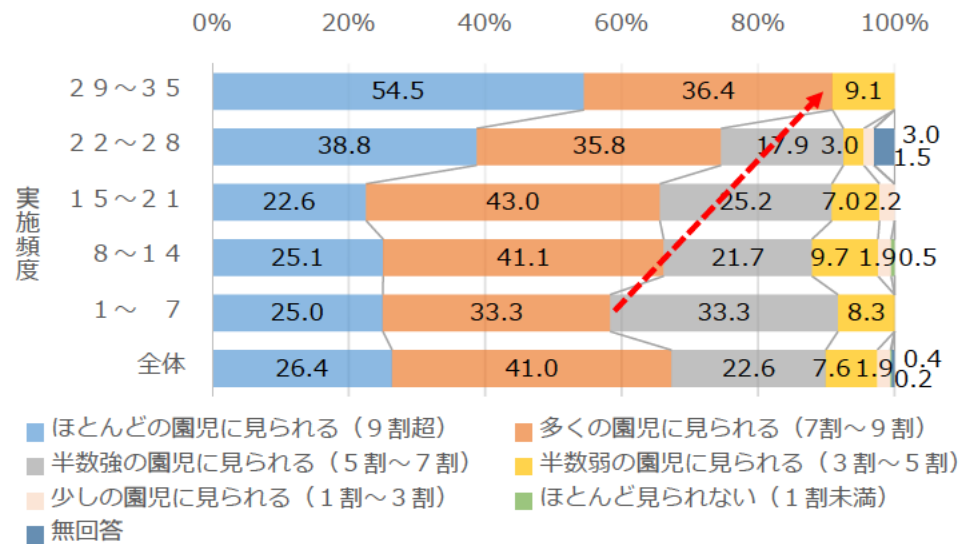
自分からすすんで何でもやる



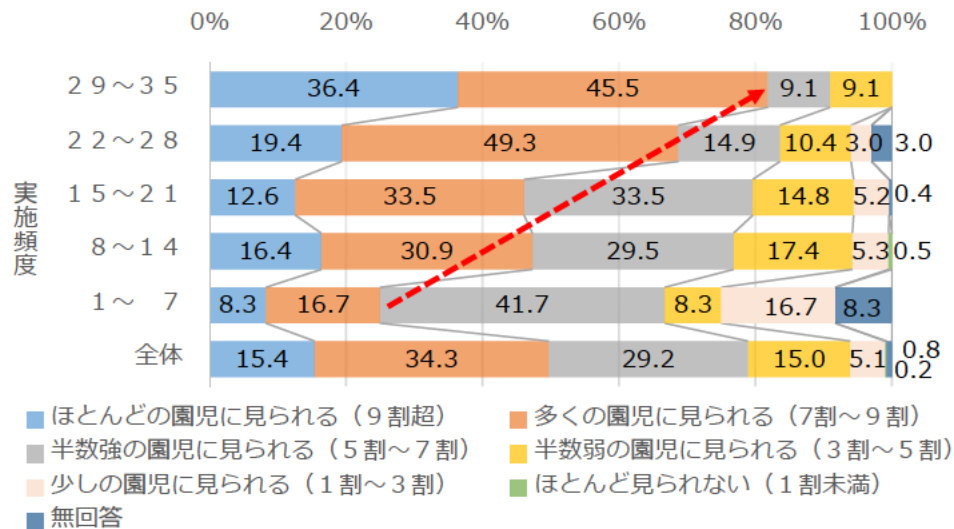
さまざまな情報から必要なものが選べる



自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる



人のために何かをしてあげるのが好き



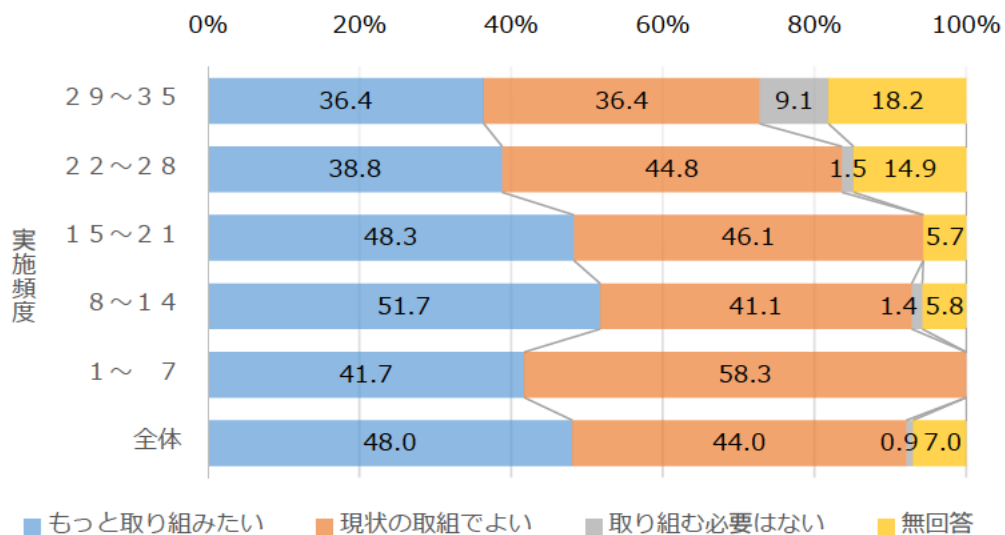
(2) 「野外体験保育の実施頻度」と「野外体験保育のニーズ」の関係

県内の 48%の保育施設がもっと野外体験保育に取り組む必要があると感じている。特に、野外体験保育の実施頻度が低い施設ほど、多くの施設がその必要性を感じている。※実施頻度が最も低いグループに属する施設を除く

保育施設向け実態調査（アンケート調査）の結果において、「野外体験保育の実施頻度」と「野外体験保育に対するニーズ」の関係を見ると、野外体験保育に《もっと取り組みたい》と答えた施設の割合は、野外体験保育の実施頻度が「8～14」のグループに属する施設では、51.7%となるのに対し、実施頻度が「29～35」、「22～28」のグループに属する施設ではそれぞれ 36.4%、38.8%と低くなっており、野外体験保育の実施頻度が低い施設ほど、もっと取り組みたいと答える施設の割合が高くなっています。

ただし、実施頻度が最も低い「1～7」のグループに属する施設では、《現状の取組でよい》と回答する施設の割合が《もっと取り組みたい》と回答する施設より多くなっています。

実施頻度と野外体験保育に対するニーズ



※【野外体験保育の実施頻度の点数化について】

保育施設向け実態調査（アンケート調査）において、各施設の屋外での自然体験の実施頻度を点数化し、点数の高い施設ほど、屋外での自然体験を通じた保育を高い頻度で行っている施設としています。P2～P4のグラフにおいて、左軸の数字（点数）が大きいほど、野外体験頻度の頻度が高いことを示しています。

(3) 「施設の所在地」と「野外体験保育の課題」の関係

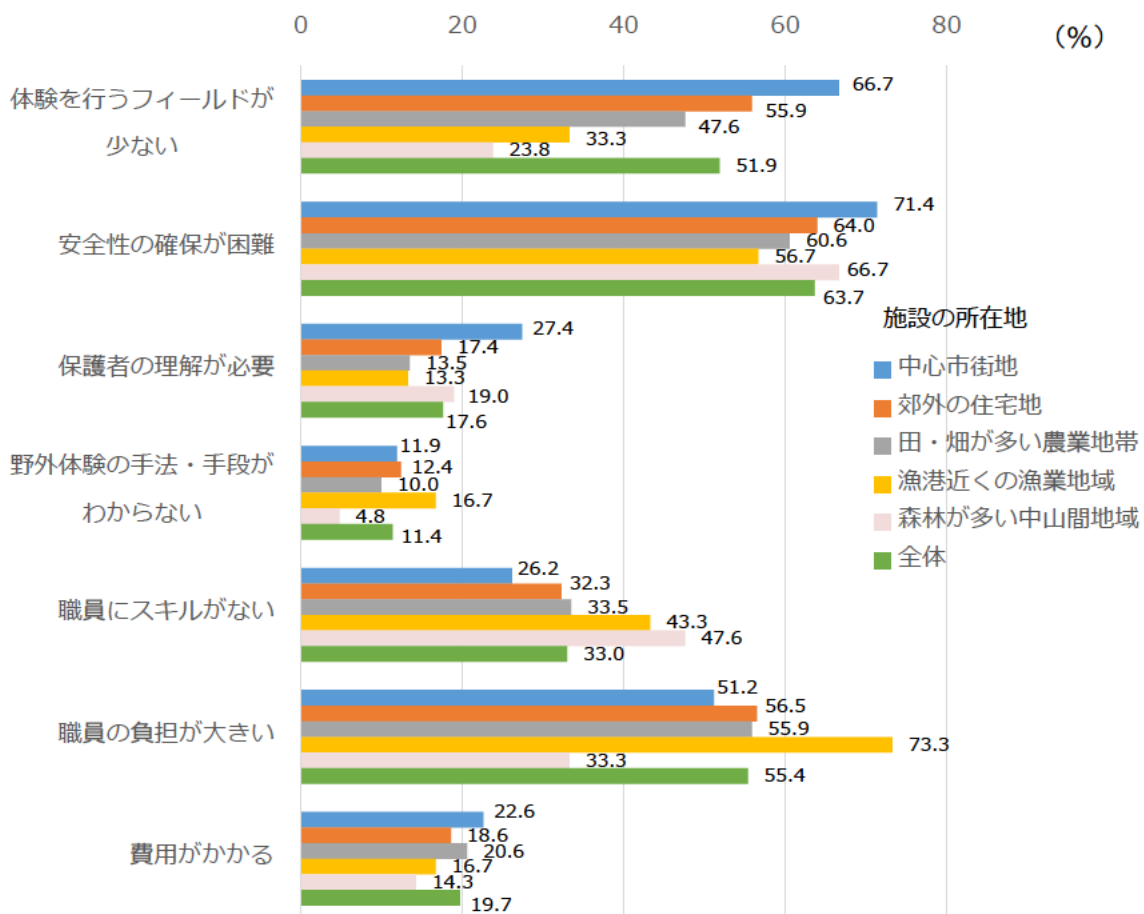
野外体験保育を進める上での課題は「安全性の確保が困難」が最も高く、次いで「職員の負担が大きい」「体験を行うフィールドが少ない」「職員にスキルがない」と続く。特に中心市街地や郊外の住宅地では「体験を行うフィールドが少ない」を課題にあげる施設が多い。

保育施設向け実態調査（アンケート調査）の結果では、「野外体験保育に関する課題」について、「安全性の確保が困難」との回答が63.7%と最も高くなっています。

次いで、「職員の負担が大きい」との回答が55.4%、「体験を行うフィールドが少ない」が51.9%、「職員にスキルがない」が33.0%となっています。

特に「体験を行うフィールドが少ない」と回答した施設は、中心市街地で66.7%、郊外の住宅地で55.9%と高く、一方、農村部（農業地帯や漁業地域、中山間地域）では、23.8%から47.6%と低く、施設の所在地との関係が見られます。

施設の所在地と野外体験保育の課題

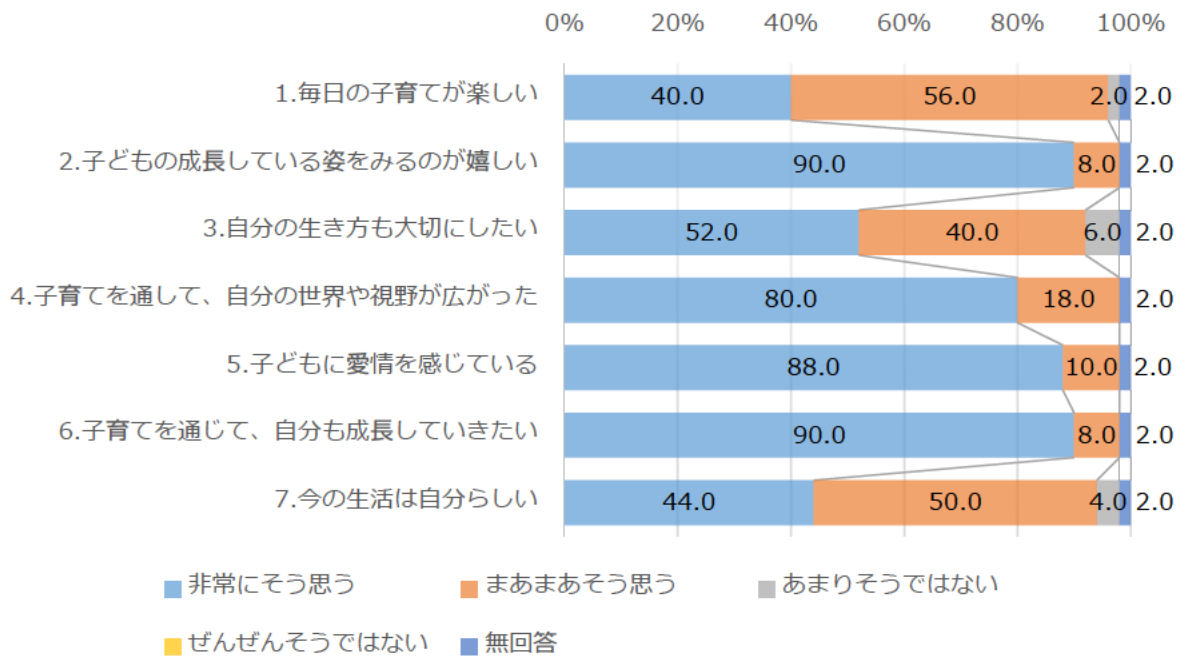


(4) 保育施設に子どもを通わせる保護者の思いについて

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者は、今の子育てと自分の生き方に肯定的な感情を持っている。

野外体験保育に積極的に取り組む施設に子どもを通わせる保護者向け意識調査（アンケート調査）において、子育てと自分の生き方の肯定的な感情について、7つの項目に対する思いを質問したところ、《非常にそう思う》及び《まあまあそう思う》と回答した人は、全ての項目で9割以上を占めており、ほとんどの人が、今の生活に対して肯定的な感情を持っていることが見られます。

子育てと自分の生き方



野外体験保育の普及方策

今回の調査結果では、各保育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園。以下同じ）から、野外体験保育を進める上での課題があげられました。

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設では、自然を豊かに活用し、子どもの「生き抜いていく力」を育むことを意識しながら取り組まれています。

こうした考え方をもとに、野外体験保育を普及していくためには、保育関係者だけでなく、行政、保護者、地域の人々が互いに理解し、連携しながら課題に取り組んでいくことが重要と考えます。

「**安全性の確保**」や「**職員のスキルの向上**」については、野外体験保育に取り組もうとする施設に対する専門家の派遣や、職員が当保育について学ぶ機会を提供することなどが重要と考えます。

「**職員の負担軽減**」や「**体験を行うフィールドのなさ（少なさ）**」については、野外体験保育に積極的に取り組んでいる事例や、県内各地に存在するフィールドの情報などについて広く情報提供することなどが重要と考えます。

「**保護者・地域との関わりのつくり方**」については、保護者、地域の人々や地元の市町等が野外体験保育を理解し、実施に協力する機運が高まるよう、野外体験保育の取組内容やその有効性・必要性について広く啓発を図っていくことなどが重要と考えます。

野外体験保育を進めるうえでの課題は、各保育施設の状況によりさまざまであることから、実状に合った支援を行うことが重要と考えます。

アンケート調査にご協力いただいた県内の幼稚園、保育所、認定こども園の関係者や保護者の皆さん、現地調査にご協力いただいた施設の関係者の皆さん、その他、調査にご協力いただいた全ての皆さんにお礼を申し上げます。

「野外体験保育有効性調査」の詳しい内容は

三重県 野外体験保育有効性調査

検索

野外体験保育有効性調査 報告書【概要版】2016年（平成28年）3月

三重県健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

電話 059-224-2304 Fax 059-224-2270 E-mail shoshika@pref.mie.jp